

水地申第18号 2020年3月ダイヤ改正及び常磐線富岡駅～浪江駅間の運転再開（常磐全線運転再開）に関する申し入れ 団体交渉を行う！（3ページ）

5. 本体雇用エルダー社員の短日勤務選択者に対する標準数算出基準の考え方を明らかにすること。また、区所毎における本体雇用エルダー社員の枠数の考えを明らかにすること。

回答：標準数の考え方に変わりはない。

●特徴点

- ・標準数に関する考え方はこれまでと変わらない。また、本体勤務エルダーの枠を設定するものでもない。
- ・エルダーで短日数を取得される方がいるのは把握している。

組合：短日数希望者が増えても、現在員数一人としてカウントすると、勤務操配が厳しくなる。エルダーの配属箇所では余裕を持たせる配置とすべきだ。休勤が多くなったり、短日数制度を使えなくなったりしてはいけない。

会社：職場の業務内容や行路によっても変わるのでよく見ていくしかない。区所の業務を回していく事は重要だが、休勤ばかりになるということは好ましいとは思っていない。必要な要員は配置していく。休勤の発生している理由も見ていく。

6. 台風19号による災害で、不通区間となっている、袋田駅～常陸大子駅間の復旧状況を明らかにすること。また、今後の復旧に向けた考え方とスケジュールを明らかにすること。

回答：水郡線の西金～常陸大子間は、2021年夏頃の運転再開を目指し、復旧工事へ向けて準備を進めているところである。

●特徴点

- ・西金～袋田間は2020年の7月上旬の運転再開を目指して復旧を進めている。
- ・袋田～常陸大子間は2021年夏を目指して復旧を進めていく。なお、洪水期など河川水量によって工期が左右されることがある。
- ・2020年7月時点では、ダイヤ改訂で対応する予定である。
- ・それぞれの復旧が進み、運転再開に向けた見通しが立てば提示する。

7. 現在、災害により暫定ダイヤでの運用となっているが水郡線の全線運転再開後については、列車ダイヤと乗務員運用を災害前の体制に戻すこと。

回答：決定次第お知らせする考えである。

●特徴点

- ・当面して、7月の改訂に集中していく。
- ・列車ダイヤはご利用状況を見て決めていく。そのため、乗務員運用はまだ決まっていない。見通しが立てば提示していく。

組合：水郡線営業所は水郡線を守るために頑張ってきた。本数の削減は職場が一番不安になる。その事を受け止めるべきだ。

会社：列車ダイヤによって運用も変わることから、被災前に確実に戻すとは言い切れないが、組合の主張については受け止める。

**申18号は全項目の議論を終了！
常磐線全線運転再開後も検証運動を創りだそう！！**